

第 20 回 薬物乱用防止教育研修会報告書

山口県学校薬剤師会 寺戸 功

日時：平成 23 年 8 月 6 日（土）9 時 55 分～16 時 30 分

場所：横浜市神奈川区鶴屋町 2-17 相鉄岩崎学園ビル

10:00 基調講演 薬物乱用の現状と課題 神戸大学名誉教授 石川 哲也

1.薬物乱用の現状 2.諸外国における薬物乱用の現状 3.薬物乱用防止の課題という内容で講演された。最近では依存「いぞん」ではなく「いそん」と発現することも多くなってきている。事業仕分けでも薬乱予算が削減されてしまった。薬乱による諸外国の最高刑は東南アジア・中東では全て死刑であるのに対し欧米では終身刑、オランダは禁固 2 年と軽い。刑務所に入っている人の 20%が覚せい剤で検挙され、全体として薬物に関して入っているのは 30%に達しており、覚せい剤の再犯率は 50%にまで及ぶ。特に最近では女性が増加傾向にある。また世界的に大麻が増えているがそれでも覚せい剤とシンナーはその 10 倍多い。MDMA はやや横ばいであるが多少減少傾向にある。これは押尾学の事件でその危険性が社会に認識され始めているため。覚せい剤では 2007 年に麻薬指定された動物用麻酔薬のケタミンが増加している。特にアジアで多い。ヨーロッパではエイズの増加阻止のために注射器の自動販売機もあるが街中に血液の入った注射器が捨ててあることも。

11:00 教育講演 学校で行う薬物乱用防止教育の実践
(財) 日本学校保健会次長 並木 茂夫

学校においては知識を一方向的に詰め込んでも「生きる力」、つまり人と交わる力、メディアを分析する力がないと『行動』が伴わない。知識だけを学校で与えるのは我々の自己満足に過ぎない。生きる力を育成して欲しい。最近の子供は家庭環境のせいだ兄弟もなくトラブルに対応できない。幼少期から保育園に行くだけでもその力は身に着く。また子供に対して“あなたはダメな人間だから”などと言う親・教員はもってのほか。

学校教育においてはビデオを見るだけでは全く身に着かない。例えばビデオ視聴の後学生自身に調べさせる。発表会を行ったり学校新聞で報告させると断然効果的である。そうすることで『ブレインストーミング (予防について)』学んでいける。また何でもいいから賞賛を与えること。その一言で生徒は変わる。学校薬剤師にはそのことをお願いしたい。薬剤師が一言声をかけるだけでその子は変わる！

最後に、単発で学校に行き指導するより 1 ヶ月薬物乱用キャンペーンを行い、その中で指導に行くといふ。指導だけではなくディスカッション形式のようになるとさらに効果的。

13:00 研究講演 薬物乱用の医学 ー大麻を中心にー

医療法人せのがわ KONUMA 記念広島薬物依存研究所長 小沼 杏坪

最近の薬物乱用はゴム風船減少である。どこかを抑えるとどこかが膨らむ。シンナー等の有機溶剤は制圧されてきてるが MDMA の流行期に入っている。1000 日=3 年以上止められたら本当に辞めたことになるが依存への恐怖心から 1、2 カ月止めたのは単なる中断。大麻やヘロインといった抑制系の薬物は依存が強く、精神及び身体的依存が起きる。

14:00 実践報告と意見交換 薬物乱用の根絶を目指してどのように取り組めばよいか

コーディネータ 川口市立 中学校教諭 村木 久美江

実践報告者

池袋区立池袋第二小学校教諭 辻井 克彦

池袋区立要小学校養護教諭 松並 富美江

上尾私立南中学校養護教諭 斎藤 夫美恵

東京都学校薬剤師会理事 井戸 久夫

それぞれの立場から実践報告がされた。最初の小学校教諭のお二人のお話では、生徒に事前に①薬物の名前を知っていますか。②その名前をどのようにして知りましたか。③薬物はどのようなものだと思いますか。といったアンケートを実施し、本番の授業では〇×クイズ、アンケートの結果報告、ビデオ視聴を行って計 45 分授業とする。時には生徒が生徒へ授業を行ったこともあり非常に効果的であった。

3 人目の中学校教諭のお話では、学校保健計画だけではなく薬物乱用防止教育計画を作成し、全職員の共通認識をもって指導にあたっている。またその中で喫煙・飲酒・薬物乱用について①関心を高める②認識を深める③態度を身につける④理解を深める。といった薬物乱用防止教育目標も掲げている。

最後に東京都学校薬剤師会における実践報告がされた。パワポ・ビデオを用いており、パワポの構成は・クスリの正しい使い方・アルコールの害について・タバコの有害性について・薬物乱用防止について。である、特に薬乱については「血中濃度」という言葉を必ず入れ、繰り返し話すことで有害性や副作用を理解させている。また盛岡少年鑑別所提供の少年が描いた絵を多数用いた講演内容にしている。とのことであった。

最後に今後の展望と課題について、・講義を行う機会が増える・新しい乱用薬物の出現・子供たちの目や耳にどのように伝わっていくかを常に考えていく・講義の内容は最新の情報を取り入れ、プレゼンの方法も工夫を続けていく・行政や各種団体、警察関係とも連携を取っていく。と紹介され講演を終えられた。

16:25 閉会式